

# FMU 男女共同参画通信

第17号 June 2018

福島県立医科大学男女共同参画支援室

男女共同参画推進本部は、この4月で5年目を迎えました。今年度より改定された「男女共同参画推進行動計画2018（H30）年度～2020年度」に基づき、皆様が仕事や研究とライフイベントを両立し、個々人のキャリアや所属内の男女共同参画を実現出来るよう、様々な取組を行って参ります。今年度もよろしくお願ひいたします。

## 男女共同参画推進本部長の挨拶「男女共同参画の推進に向けて」

2017（平成29）年4月1日付で、男女共同参画推進本部長に就任し、2年目になりました。さて、本学にも以前から、女性医師支援センター、キャリアラボなどが男女参画の視点から活動してきた部門がありましたが、平成26年度より男女共同参画推進本部として統合され活動を続けています。これまでの関係の皆様のおかげにより、本学は全国的にも女性の働きやすさはかなり改善してきていると思います。しかし、まだ決して十分とは言えませんので、現在もさまざまな取り組みを継続しております。

ただ、ややもすると「男女共同参画推進」＝「女性教職員等への支援」と受け取られかねない側面が残念ながらあります。その最大の理由は、本男女共同参画支援室の活動等が十分に本学の皆さんに伝わっていないからではないかと考えます。本学が教職員等すべての関係者にとって働きやすく、快適な職場になる一助となるよう、職員一同努力しているところですが、新年度から、男女共同参画推進体制を強化することに致しました。その内容としては、男女共同参画推進本部の下にある男女共同参画支援室の実質化です。支援室長の小宮ひろみ先生の他に、支援室員として、前島裕子先生（医学部病態制御薬理医学講座）、大野雄康先生（医学部救急医療学講座）、丸山育子先生（看護学部基礎看護学部門）、鈴木朋子先生（会津医療センター漢方医学講座）に就任頂きました。具体的には、ワークライフバランス支援部門の業務として、休暇・休業制度を利用できる環境整備、アンケート調査・解析を、キャリア支援部門の業務として、女性教員在職比率向上、女性参画拡大、研究支援員配置を、女性医師支援部門の業務として、女性教員在職比率向上、女性参画拡大、育児・介護支援をそれぞれ分担して対応してもらおうというものです。

もとより、一部の教員の努力に依存するものではありません。全教職員の積極的な関与を強く期待するものです。

今年度も何卒よろしくお願ひ致します。



本部長 安村 誠司

## 男女共同参画推進本部／男女共同参画支援室新メンバーの紹介

### ■男女共同参画推進本部 本部長

○安村 誠司（教育・研究担当理事／副学長  
医学部公衆衛生学講座教授）

### ■男女共同参画推進本部 副本部長

○小宮 ひろみ（性差医療センター一部長／教授）

### ■男女共同参画推進本部 本部長

○紺野 慎一（地域医療・新学部担当理事／副学長  
医学部整形外科学講座教授）  
○亀岡 弥生（医療人育成・支援センター教授）  
○木下 美佐子（看護学部基礎看護学部門准教授）  
○鈴木 朋子（会津医療センター漢方医学講座准教授）  
○伊藤 剛（事務局次長）

### ■男女共同参画支援室 室長

○小宮 ひろみ（性差医療センター 部長／教授）

### ■男女共同参画支援室 室員

○前島 裕子  
（医学部病態制御薬理医学講座准教授  
医療エレクトロニクス研究講座准教授）  
○大野 雄康  
（医学部救急医療学講座助教）  
○丸山 育子  
（看護学部基礎看護学部門講師）  
○鈴木 朋子  
（会津医療センター漢方医学講座准教授）



## FMU キャリアサポート交流会を開催しました

5月25日（金）に、学生を交えての交流会「FMUキャリアサポート交流会～未来の“私”を考えよう～」を開催しました。講師に、秋田大学医学部総合地域医療推進学講座准教授蓮沼直子先生と本学附属病院看護部きぼう棟外来看護学臨床准教授東雲紀子先生を招聘し、ご講演いただきました。

蓮沼先生には、『医療者のためのアンガーマネジメント入門』と題し、怒りの感情の性質や上手なコントロールの仕方について、具体的に分かりやすくお話いただきました。東雲先生には『チーム医療でその人らしい生き方を支える～福島医大植込型補助人工心臓チームの取り組み～』と題し、チーム医療の現場で重要な視点や、具体的取り組みについて、ご自身のご経験を踏まえお話いただきました。

また、本学医学部4年生の前田都秋さんと伊藤愛さんらの調査による『福島の子育てサポート～仕事と子育ての両立～』について、前田さんからご発表いただきました。

参加者からは、「将来を考える上で必要になることを多く聞くことができ、参加してみてもよかったです」「自分の怒りの感情を自覚することが大切だとわかり、日頃の自らの行動を振り返ることができました」「チーム医療に関わる将来を想像した時間になりました」などの声が寄せられました。ご講演終了後には交流会も開催され、学生を交えて親睦を深めました。



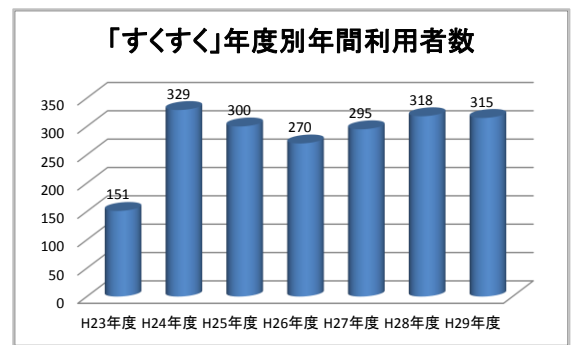
## H30 年度育児サポート事業説明会を開催しました

5月18日（金）に北外来棟 2F カンファランス 2 にて「育児サポート事業説明会」を開催しました。

説明会では、本学の病児病後児保育「すくすく」、育児サポート事業「こども緊急サポートネットワークふくしま」、「福島市ファミリーサポートセンター」のスタッフの方々に事業の概要、申込み方法などについてご説明いただきました。



ご利用を希望の方は、お気軽に当支援室までご連絡ください。また詳細はHPでも紹介しておりますので、ぜひご覧ください。<http://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/effort/>



## 女性休養室のご案内

6月より附属病院内に女性休養室が開設されました。搾乳や女性特有の症状による体調不良時の休養にお使ください。利用条件等、詳細は男女共同参画支援室HPにて掲載しておりますのでご覧ください。

<http://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/board/3620/>

対象 ■ 本学の女性教職員

場所 ■ 本学附属病院

みらい棟 2階スタッフルーム内

設置数 ■ 3室

開始時期 ■ 2018/6/4（月）

利用時間 ■ 土日・祝日・  
年末年始を除く  
平日 9時～17時

設備 ■ ソファ、  
テーブル



## H30 年度下半期のニーズ調査を実施します

ライフイベント（出産・育児・介護・看護等）を抱えた教員の研究支援を行っております。つきましては、**7月中**にニーズ調査（配置希望調査）を行います。

**支援期間：H30年10月1日～H31年3月31日まで**

1. 対象者：本学の主に医学部・看護学部・会津医療センターに所属する助手以上（大学院生も含む）の研究者（性別は問いません）のうち、①～④にあてはまる教員。

①妊娠中であること

②家庭において、小学校6年生までの児童の主たる養育者であること

③同居・別居に関わらず市町村の要介護認定を受けている親族の主たる介護者であること

④その他、上記に準ずる（家族の看病をしている等）状況であること

2. 支援を希望される方は、7月中に配布する調査票にて詳細をご確認ください。

福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別に関わらず、多様な価値観を認め合い、持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、仕事と生活の調和を実現することを目指しています。

## 福島県立医科大学 男女共同参画支援室

E-mail : [gendeqsp@fmu.ac.jp](mailto:gendeqsp@fmu.ac.jp) / Tel : 024-547-1657（内線：2807） / HP : <http://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/>

男女共同参画支援室長 小宮 ひろみ / コーディネーター 千葉 篤子